

特集

認定専門家・専門医になる！

どうやって？役に立つの？

医師，保健師を含む公衆衛生従事者の専門性の高まりや個別分野に必要とされる知識や技術の高度化に伴い，また，臨床の専門医制度統合の動きなどとも呼応して，公衆衛生関連の学会や団体で専門家や専門医の認定制度を発足させるところが増えてきました。

本特集は，以前から運営されている日本産業衛生学会の学会認定産業医制度や社会医学系の学会・団体が共同で立ち上げた社会医学系専門医制度を含め，公衆衛生分野の主な専門家・専門医の認定制度をレビューし，それらの目指すもの，メリットと課題，社会に対するインパクト，今後の展望を分かりやすく示し，既に取得している人，これから取得しようとしている人の参考となる特集を目指しました。また，わが国の保健医療に与える影響が大きい日本専門医機構の専門医制度や，英国など海外における状況についても解説しました。

当たり前のことですが，多くの人にとって，認定専門家・専門医の資格を取得するのに要する年月よりも，それを保持し続ける期間のほうがずっと長いわけです。取得することがゴールではなく，更新を重ねて保持し続けることの方がより大切で，その長いプロセスにこそ，プロフェッショナルの生涯教育(学習)としての制度の価値があるのだと思います。

また認定専門家・専門医に加えて，指導者・指導医等の上級者制度を持つところもあります。単に若手を指導するだけではなく，当該学会やその分野全体をけん引していくことも期待されているものと思われ，その名称にふさわしいロールモデルとしての態度や行動が求められています。

今後の認定専門家・専門医制度をどう育てていくのか。そのようなことも考えながら読んでいただければ幸いです。 (「公衆衛生」編集委員会)